

日本書紀第十

應神天皇

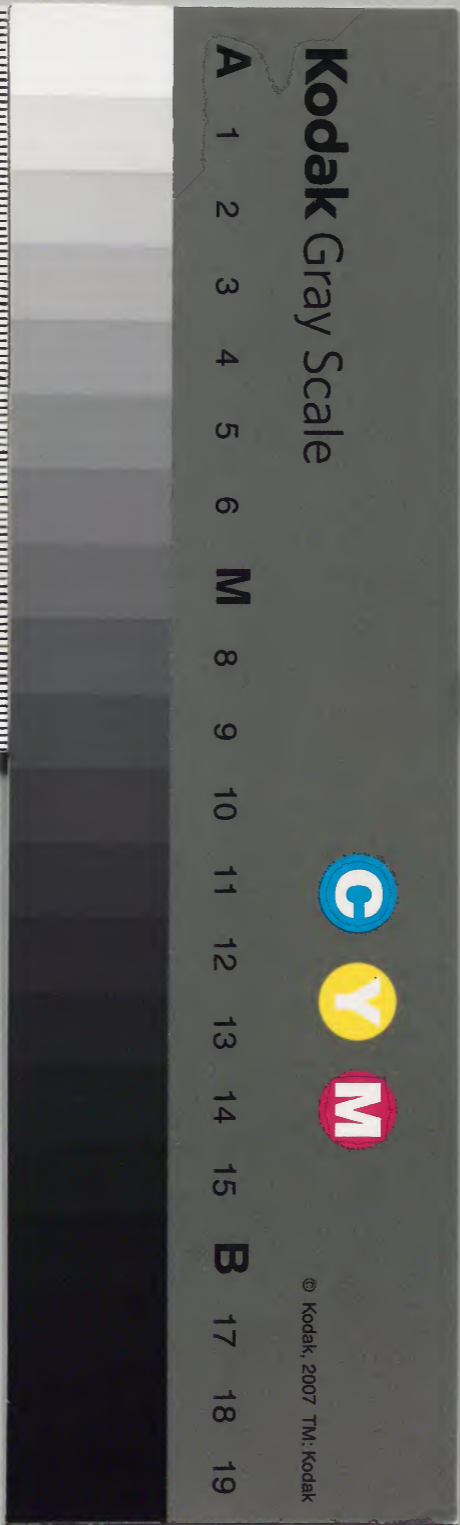
十

脱

太政官文庫			
和書門	特別	三二〇九	函架册
	類	九號	
		三二	
		册架	

内閣文庫			
番號	和	32099	
册數	32 (12)		
函號	特	55	12

共廿二



日本書紀第十

應神天皇



天皇尊てましめて天神地祇三韓と云り
 たまはりしを小産ませりと云腕の上生さ
 べしと云らち鞠は是皇太后の雄壯と
 云ふまて鞠と負ゆらに肯たまり故
 くと梅まして天田天皇也と云
 上古代時倍鞠と号てゆけしと云
 一云くは天皇を子にましゆ時越國は
 行まして角鹿の首飲の大神と云とま
 孫の神は大神と云ふと云あひく孫の故大神

と号てまき糸別神とまらと云と云は
 卷田別神と云つげまらと云と云は
 大神のなりと云卷田別神とまらと云は
 皇太子を子と云と云まき糸別神と
 まらと云と云と云まらと云と云
 いまの詳ありと云
 撰政六十九の夏四月皇太后崩すは
 元年正月乙未の卯朔皇太子を御
 つとみと云と云と云と云と云と云と云

二月春三月のえいぬる朔のえいぬる日仲
 姫とあてて皇后とてなす皇后意田皇女大鶴
 鶴天皇根島皇子と生すは是よりとて天
 皇皇后の姉高城入姫とて妃とて額田
 大内彦皇子大守皇子去来主稚皇子大原
 皇女滂田皇女と生すは又妃皇后の弟弟姫
 阿倍皇女淡路郡原皇女紀之菟野皇女と
 生すは次乃妃和弭臣祖日觸使主れしとて宮
 主宅媛菟道稚郎子皇子久田皇女稚島皇
 女次妃宅媛之小甌媛菟道稚郎子皇女と生
 すは次妃河泚仲彦のじとめ才姫稚野毛二
 泚皇子と生すは次妃橘井田部連男鉦妹
 系媛隼総別皇子と生すは次妃日向姫長姫
 右葉枝皇子小葉枝皇子と生すは是とてこめ
 天皇此男女何とせく二十リ一は皇御もは
 根島皇子は是去来主乃とてありあり大
 守皇子は是去来主乃とてありあり二族の
 とてありあり去来主乃とてありあり

うと海門あやなり。

三年冬十月かのころ望月の朔の朝に乃とれ
らりの日東乃轍夷としく名小朝貢とせし
らら轍夷と役て既坂道とけりし。十一
月処の海人訕叱て命よきとひまら
とすからら何曇連乃能大濱宿禰とまじ
ての訕叱と平ししと海人の辜とと故
俗人儀よと佐磨阿摩といふしとの縁
なり。とよ百濟辰斯王貴國乃天皇れ

あめし礼す。故紀角宿禰羽田交代宿禰
石川宿禰本菟宿禰とまじりてのりや
しうらと噴讓し是にそ百濟國辰斯
王とら儀してそと謝す紀角宿禰等と
らら何花とそとまじりてなり
五年秋八月かのえとの朔の朝のえとれ
日德國よ令して海人とと心守部とと
冬十月倭豆國よ科て船とけりし長
十丈船とそと成てそ海人よ海ふと

あまらかたはくうふてう行くと地が
故に船とみつけく柘野とゆくと

船くくしきふ川と柘野とあひを
この義多ふりり柘野とつらへ
後乃人統り

六年春二月天皇あつれらゆ幸まら荒
道登上よいさうまうて方々その海く
ちんのひぬとれしりらまやふと
えゆふらぬまゆ

七年秋九月百濟人任那新羅人
あひよ米朝時武内宿禰命して
法韓人等と領て地とゆくとしよて
て地とみづけて韓人地と号と
八年春三月百濟人米朝

百濟記云河紀王立て貴國と終り
我枕孫多禮とて岷南支侵吾那
東韓の地とてして王子直支
と云朝よまうて先王れ

あはれ

九年夏四月武内宿禰とほくしにまゝ
とて百姓と監察ししは武内宿禰の才
身美由宿禰兄ととすから天に
謗言く武内宿禰つひ天下と
おろしめんたり今に海をけり
ふらんたりてむせりにたりて
はくしと裂く三韓とまのては
あはれおろし天下とあらしめん
とまらば

天皇とれら使とまてて武内宿禰
とらとめんは武内宿禰をけ
こせ海とく吾戴心とて忠と
て君はほくしと今にのりて
死とて死とて直真根と
し者んとたりとありと武内宿禰の
しと似り武内宿禰つひと
しと死んとては武内
宿禰とて今に忠とてま

此よりまうりしとてよふまきかむらゝ
天下ともふおれり孫がくひさうにう
避て朝よあむてふらうまきと
辨くのら死んしと映ししむ時の人
よ云僕が形大臣よ似り故今我大臣代
て死よりて大臣の丹心とあふんしひて
あまら孫よ依くしつゝ死ぬ時よ武内宿禰
むらり大よそれとるひとむらつ
と避て海ありしてあふりあがりて

水門よ海よりつた朝よまうりつるに
てとれららばとあまきと辨じ天皇すか
ら武内宿禰よす養内宿禰と推し
あまきふらに二人あつて
そふ是也史しつて天皇みとけりして神紙
よ信て探湯せしむとて武内宿禰
す養内宿禰とよ小磯城の川濱よあて
探湯しつる武内宿禰らあまきと横力
と挑くを敵外してす養内宿禰とけあ

殺さんころとて天白あましろ勅しきりしてゆるさしめしめて
紀伊直等きのいのおらが祀まつりたづなり

十一年冬十月。飯池、窪池、鹿垣池、尻坂池と

はらり。今あつてまうりしてゆさく日向ひうめ

國くには孃子むすこらんりりあひ髪長媛かみながひめともうは

あくら。徳縣君半徳井とくけんきみ はんとくいじとあまりたれ

國色くにいろとられあひひとありやまうは天白あましろよ

ろとまうりてあのみくらに覺あはとおしほと

十二年。三月。天白あましろ書使あきつひとまうりて

髪長媛かみながひめと徴あきし。秋九月。あつれとる髪長媛かみながひめ

日向ひうめよりゆりしとまうりたれとる葉ははのけ

小安こやす置おし。とに白あましろ子こ大鷄おほ鶴つるとる髪長媛かみながひめと

えまうりたれとんでまうりたれ養やし養やし感あはて

つ。とるあひ信まことし。ゆとる天白あましろ子こ大鷄おほ鶴つるとる

乃すなは髪長媛かみながひめと感あはて。とるあひ感あはて。配あはせん

とおし。とるあひとるあひ。天白あましろ後のち文のふみよ。宴あひらとる

あひとるあひ。とるあひ。髪長媛かみながひめとあひて。とるあひ

とるあひ。とるあひ。席いすよ。とるあひ。とるあひ。大鷄おほ鶴つる

きと扱そ髪長媛と扱まうくそとれ
らう方うそこの海へ

いさあふれよむらほえりひつたよ
ゆくみらよかかかたらしれた
あふれしむらほえりひつたよ
いんばらりのあはれむらほえり
あふれとあふれとあふれ

大鷓鴣おかしきうのうのうとだうらりそとれ
髪長媛うしういあとだうらりそとれ

おほふふとれいしてくうたてまうり
てね海へ

あふれとあふれとあふれとあふれ
あふれとあふれとあふれとあふれ
あふれとあふれとあふれとあふれ
あふれとあふれとあふれとあふれ

大鷓鴣おかしきうのうのうとだうらりそとれ
髪長媛うしういあとだうらりそとれ
あふれとあふれとあふれとあふれ
あふれとあふれとあふれとあふれ

みられたりしころとありてあつたのしき
らるる一もや河もまらへり
又尋しそそのしゆ

るらりしころとありてあつたのしき
と新しきしきとありてあつたのしき
一玄日向の徳縣君半朝庭よははらま
つりて年とそしきとありてあつたのしき
ららりしころとありてあつたのしき
しよめ髪長媛とそしきとありてあつたのしき

磨れらるるしきとありてあつたのしき
幸なりして遊覧しきとありてあつたのしき
のしき紙中しきとありてあつたのしき
浮てしきとありてあつたのしき
水門へ入ぬ天はまた右よしきとありてあつたのしき
らるるしきとありてあつたのしき
多しきとありてあつたのしき
やしきとありてあつたのしき
し使者しきとありてあつたのしき

麻皮と急率とて衣服とすは同
云ふれ人そとて云徳縣君半とれ
一者て致仕とりとも親庭とん
とすれまうと故已じとあ髪長媛
とてたなくまう天宮とあひまうと
とれらあして船よほまうじと
もて時のかろ岸よつげとあけて
麻子水門とまうはりたそ水と麻子
まういともまうしとあそあの時よあり

十四年壬子二月百深王縫衣工女共元付と
まうとああてまう是今此米目の衣縫
りともあやありとあ一と月者百深り
米よりあてともしてあてと信已
かほれ人吏百二十縣と領てまうりとれ
も新野の人をくにとあか國り
らまうりらに普城新津産とまうて
弓月乃人吏と加野よめとあしとれと
二とあまそよ新津産まうとあ

十五日秋八月川のえいぬ月朔のよれ卯
乃日百深王河直波とまきうてはるに
てまきうとれら輝坂上の厩よまきし
そ河直波とまきうてはるに
るふ一旭とまきうて厩坂とまきうにあり
直波まきうて経典とまきうすかからた子
荒道雅郎子師一給ふに天皇河直
波よまきうてまきうてはるに
まきうてはるに
まきうてはるに

まきうとめいんり是考らうとゆと
上毛野素祖意田別巫別と百深はゆ
てそま仁とめいんりはるに河直波河直波
史のそ河あやう

十六日乙未二月王仁来りしとれら
道雅郎子とれと師とて法典籍と王
仁よ習ふまきうてはるに
故いゆ王仁とれ書首とまきうてはるに
とわ百深の河花王豊ぬ天皇直支王

とありしころしては海へは出ぬは國より
ての位とつりてのまぶそまの東韓の
地とたりひてこれとまふこと
八月平群本莞宿禰的戸田宿禰とあり
ふまふを精兵とあらてみしありて
れは海へは津彦とあらてみしありて
とありしと新羅人のふせにあらて
まららん伊等志あらにあらて新羅と
あらての道路とひまをあらてみしありて本

莞宿禰本精兵とすめて新羅はさひいよ
のぞい新羅王愕てそのつらに胎ぬとれ
ららら月の人夫とひまをあらて津彦と
とありしとあら

十九年冬十月つらのえいぬれ朝を登れ
よ幸まふは時よ國標人米朝とて醴酒と
て天皇よたそまらつてあらてあらて
かーのがよとあらてあらてあらて
あらてあらてあらてあらてあらて

せまき海より

方よりしとぞよおふりてとれらら口とせし
て何ふひとく嘆ふ今國標むし去毛あてま
つる日方おきてとれらら口とせし何あてて
らふもきこへりこれのさねらなりなりか
乃國標むしとち人ともりなれりな浮朴を
アつひよじ乃菓とつりてらむもまゝ搬
蟻と煮て上味とつりてらむつけて毛糸
とつりその去し糸より東南北すまに

ふと魚ぶてと吉野河のせらりにとせり峯
さぐりくも若うくて道海獲瀨し故
糸よりとびらうすしとせしやらら羽来
しとせらりあらにせらららとせむく
糸糸てして去毛とあてまらうと去毛を
粟菌とよむ年魚乃とらひあり
二十自秋九月倭漢直紀河知使主その子
那加使主りしひよ己が堂類十七縣と
せしとわく来婦

しそゆらぬ天白き鹿ふしして先
媛が船と下りてしつうのそと云

あそらとゆらやいひりこゆ
いんさるなむもゆきまゆか
うぬれあそらうむるれりとい
んつらゆ

秋九月かのれんろ朝立のえいぬの日天皇
あそらゆら楊一なるそろ鳴し海ふら
う川と船政の西よりり 峯巖終端て段

谷あひほり芳茅蒼蔚て長瀬深
まも鹿鹿鳥居多よみのゆふんり
政業興志むく河をいさまふ天皇すめん
ちあそらゆらりめづりてりる吉備よ幸ま
して小豆湯よあそい流ふかのえとれ日ゆ
し葉田乃葦守の文よ梅后と時よ御友
別業よりとれしそらそ兒才子孫とて膳史
とて郷會あそまらる天白き御友が
ほり見しそまらてはつらうらと

みそありてよりい終ふん縁よりゆと
よそもて吉備國とてさそ子等と封
とすから川崎縣とてさそ子等と封
別と封と是下道后のさそ子等と封
上道縣とて中子仲彦と封と是上道
長者后后のさそ子等と封と是上道
もて才彦と封と是三野后此と封と
さそ子等と封と是下道后のさそ子等と封
封と是三野后此と封と

として先浦瀬別と封と是苑丘のさそ子
おやりりとしら織部縣とて先媛よ
たりたりと封とてさそ子孫今よ吉備國に
ん厚り是その縁あり
二十の百深直支王薨ぬその子久平
立て王の御子とて大倭乃本滿枝
國政とてりて王母とあひ嫁て多よ礼か
さそ子等と封と是下道后のさそ子等と封
百深記云本滿枝は是本深直支の御子

とらり一時的に國の婦と娶てうり
そ父の功任那よもるるをりて
て我由入く貴國よかとい制と天朝
ふつけい海りり我のまうりて
て指重世よあはりあはりに天朝の
暴とまこりてうりて

二十八年秋九月高麗王臣といとまて
表とてまうるその表よ云高麗王臣とい
よ表といまうり時よ太子亮道雅郎よそ

乃表といまうりて高麗王臣といとせ
めあまの表よしとら礼あといとて
ら此の表と角り給

二十一年秋八月まらにちよみとらり
してれまうりく官私名指野はらばのま
よりあてまうり給り是打てらけり
よまど志れと久く官用とまら
功まうりてとらてらち給れと絶
て後葉りてとらんとてまら

郷にあらみたりとけりてり有月
今しては船を找たりて薪して塩と
産しじにぬ百餘の塩とえたりとれ
ららやうてあまのく徳玉たりたり
し船とけりしじとて徳國一府
ぬ百船とけりしじとて武庫水門
よはしよの海にあつて新船の細使
に武庫の船よりこに新船の停りたら
まらよ失火しては船をこりてはし船よ
びて多の船をよめ是を新船とせ
め新船新船とけりてありてありてよ
かきりすかりりて匠者ともまらる先
猪り部おとりのあやうりしめ枯野船
と塩のたき木とてやう日餘船ありすか
らそれりえらりてありてありて
てまらる天白星あやうりてありてあり
ほくらしめ新船の音鑑將りてあり
ららよこの海天白星あやうりてあり

されえ孫乃日菟道稚郎子とてついで嗣と
し給その日大心守命と仰して山内山内木野と
つとてあかき大鶴鶴ととりていづ子孫捕と
きてたの國事ととてああ給

甲午丁酉二月このえげに此期にちれえさ
我が日あつ天白あつ明文あつ一云あつよ崩あつとてあつ時年あつ
二月十歳
此月河知使主等あつ無あつうりけりしにあつ
時よあつ月形あつ大神あつ工女あつああつとあつんあつんあつ故あつ兄あつ媛あつと
りてあつ胸あつ形あつ之あつ形あつよあつめてあつまあつるあつ是あつとあつれあつらあつら

今菟紫國よんづる御使あつ兼あつ此あつ祖あつりり
とてあつてあつまあつらあつれあつ婦あつ女あつとあつむあつさあつわあつて
りてあつけあつのあつ國あつよあつらあつりあつ武あつ庫あつよあつんあつんあつああつ
天皇あつああつのあつまあつらあつてあつゆあついあつああついあつまあつらあつらあつどあつすあつかあつらあつら
大鶴あつ鶴あつとあつらあつてあつまあつらあつるあつこのあつ女あつ人あつ等あつがあつらあつらあつ
今乃其れ衣あつ縫あつ敷あつ金乃衣あつ縫あつとあつれあつらあつり

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is oriented vertically and appears to be in a historical or regional script, possibly related to the Meiji Restoration period in Japan. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

